

第134回 東葛しぜん観察会

早春の松虫寺と旧印旛村の里山を歩く

高野満里子（鎌ヶ谷市）

日 時：2017年3月12日（日）9時30分～12時30分 天気：晴

場 所：印旛日本医大駅～松虫寺（印西市）

参加者：大人12名、指導員20名 担当指導員：田中、小川、高野、

桃の節句も過ぎ春らしい季節となりました。関東の駅100選にも選ばれている近代的な印旛日本医大駅を出発し、新しい住宅のお庭を拝見しながら少し歩きますと、急に道が細くなり昔ながらの里山風景が広がっています。印西市には歴史のある鳥見神社や奈良時代に松虫姫が病氣平癒を願って訪れたと言い伝えられている松虫寺などがあり歴史を感じさせてくれるところです。神社の森のはずれの大木には、キヅタとティカカズラが巻き付き、てっぺんまで蔓が這い上がっていて、木が光を得られず枯れてしまっています。植物の逞しさに圧倒されたり種の散布の違いなどについて皆さんと観察しました。萩原觀音堂にはムクロジやタイサンボクの大木があり、大きな狸が訪れる人を見守っています。近くの斜面にはフキノトウも見ることができました。里山風景を見ながら歩いていますと、ネコヤナギが花を咲かせていました。触ってみるとネコの尻尾の感触で名前に納得です。印西市は最近イノシシが増えているあちこちでイノシシ注意の看板があり、歩いた跡や竹林で竹の子を食べた痕跡などが見られました。コブシの開花はまだでしたが、道中ウグイスの声も聞かれ、足元にはナズナやタチツボスミレの花なども見られ、早春の里山と歴史を感じる観察会を楽しみました。

